学校インターンシップ導入に関するアンケート調査の報告

柴山 直1・高橋 桂子2・鋤柄 佐千子3・五十嵐 由利子4

新潟県における「学校インターンシップ」制導入についての可能性と必要性を検討するため,平成 13 年 8 月から 9 月にかけて行われたアンケート調査の結果を報告するものである。調査は主として、「現行の教育実習」、「学習支援ボランティア」、そして「学校インターンシップ」の 3 つから構成されている。本報告ではアンケート調査の結果を、「教育実習」や「学習ボランティア」と比較しながら学校インターンシップ制の導入についての分析結果を報告する。

[キーワード] 学校インターンシップ 教育実習 学校支援ポランティア 教員養成

1.問題と目的

新潟県における「学校インターンシップ」制導入についての可能性と必要性を検討するために行われたアンケート調査の結果を報告するものである。「学校インターンシップ」制とは、教員志望の学生たちが、学校教育の抱える諸問題(不登校、いじめ、学級崩壊等)の現実を把握し、かつ解決を図る実践的な技量を形成していくために、従来の教育実習とは別に、導入が検討されている制度である。

具体的には、従来の教育実習が短期集中的に行われるのに対して、長期にわたり定期的に、大学生が学校現場での指導を受けながら、いわばアシスタントとして小中学生あるいは幼稚園児たちと関わり、かつ、大学生にとっては大学での履修単位として認定される制度である。1校2週間~4週間という教育実習の経験をもとに、さらに長期間、継続して学校現場と関わることで、教育実習では十分に触れることのできない生徒・児童・園児の日常生活の実際をより正しく把握できることが期待される。

また、授業やそれに関連した教材研究、部活動の指導等、教育実習で経験するであろう業務以外にも、教師がいかなる役割を果たしているのか、学校組織がどのように運営されているのか、保護者や地域社会とどのような協力がなされているのかといった教育現場の現状に触れる機会を設けることにもなる。さらに、これらは、社会から求められる教員としての資質を学生が向上させる上で大きく寄与し、長期間学校に関与できることで生徒・児童・園児の成長の様子を実感することが可能となり、教職に対する意識が高まるのはもちろんのこと、その実態にもとづいた的確な指導力の向上にも資するこ

とが予想されている。

一方、「学習支援ボランティア」との比較で言えば、「学校インターンシップ」という、いわば正規の資格に基づいて学校現場に参加することで、より実践的な体験が可能となり、また、受け入れ側の学校も、単なる業務の手伝いという視点に留まらず、学生に責任を共有させることにもつながり、いい意味での緊張感が相互にもたらされるのではないかと考えられる。特に、教員の年齢構成が高い層に集まっている学校では、子どもにとってより身近に感じられる大学生の存在は学習意欲の面においてもよい影響をあたえると見込まれている。

以上のような視点にたち、新潟県におけるこの制度の 導入可能性と必要性を探るために行ったアンケート調 査の結果を、従来の「教育実習」やいわゆる「学習ボラ ンティア」と比較・分析しながら報告する。

2. 方法

新潟県内の市町村のうち新潟市、長岡市、三条市にある国公立学校園(幼稚園、小学校、中学校、計 188 校園)の校園長を対象に、平成13年8月から9月にかけて、質問紙法によるアンケート調査を郵送形式によりおこないデ-タを収集した。質問内容の概略は下記のようになる。

1)教育実習生の受入状況

1.教育実習生の受入の有無 2.年間受入平均数 3. 新潟大学生の割合 4.配属学年 5.実習科目(中学校) 6.教育実習生達の児童・生徒への影響 7.実習生受入に 関しての問題点

¹ 新潟大学教育人間科学部教育科学講座教育心理学

² 新潟大学教育人間科学部生活環境学科目家庭

³ 新潟大学教育人間科学部生活環境学科目家庭

⁴ 新潟大学教育人間科学部生活環境学科目家庭

2)学習ボランティアの受入状況(平成12年度のみ) 1.受入の有無 2.受入人数 3.内訳 4.新潟大学学生 の割合 5.配属学年 6.担当科目等 7.希望する技能・ 技術・体験・資格等 8.学習ボランティアの児童・生徒 への影響 9.学習ボランティア受入の際の問題点

3)学校インターンシップ制

1.学校インターンシップ制の認知度 2.関心度 3.受 入希望 4.受入可能学生数 5.受入時期 6.希望する仕 事 6-1.学習補助の内容 6-2.教材準備補助の科目等 6-3.課外活動の指導補助 6-4.学校行事の準備 7.導 入の際の問題点 8.その他の意見

アンケートを送付した183校のうち計128校から回答を得た。回収率で見ると68.8%となり,郵送形式のアンケート調査としてはかなり高いものである。そのうち学校種等などの情報が未記入なため分析対象とできなかった3校をのぞく計125校を以後の分析対象とした。また,アンケートの記載者の内訳は校長職にあるものが64名(分析対象校の51.2%),教務主任・実習担当の方が61名(48.8%)であり,実務的な観点からも経験を踏まえた信頼性の高いデータが得られているが分かる。

3. 結果と考察

ここでは、調査内容のうち、1)教育実習生の受入状況と、2)学習支援ボランティアの平成12年度における受入状況の概略を報告した後、3)学校インターンシップ制の導入可能性と必要性についてのアンケート結果を踏まえて考察していこう。

3.1 教育実習生の受入状況

まず調査対象とした125校が受け入れた実習生のうち新潟大学学生がしめる割合を幹葉表示したものが図1に示されている。幹葉表示の見方は,たとえば学校園数13のところをみると幹が8,葉のところに0が9個,5が3個,6が1個並んでいる。これは受け入れた実習生のうち新潟大学生が含まれている割合が80%台であった学校が全体で13校あり,そのうち80%であると回答した学校が9校,85%であると回答した学校が3校,そして残りの1校が86%と回答したことを示している。この図から分かるように,分布が双峰型になっており,実習生を受け入れている学校は,そのほとんどが50%から100%の割合で新潟大学の学生を受け入れていることになる。

学校園数	幹 & 葉
30	0 . 0000000000000000000000000055
1	1 . 0
1	2 . 0
1	3 . 0
0	4 .
7	5 . 0000005
4	6 . 0000
12	7 . 00000000005
13	8 . 000000005556
24	9 . 00000000005555555558999
15	10 . 00000000000000

図1.新潟大学学生の実習受入状況(%)

3.2 学習支援ボランティアの受入状況

次に平成12年度における学習支援ボランティアの 受入状況をみると、その内訳は図2のようになった。 その仕事内容からある意味で当然ではあるが、学生や元 教員よりも、むしろ地域住民や保護者の数が断然多くなった。 具体的な活動としては、たとえば、英会話、凧づくり、パソコン指導、田畑における栽培指導などがあげられる。

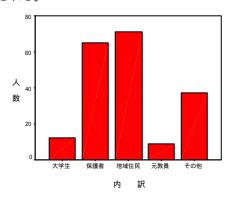
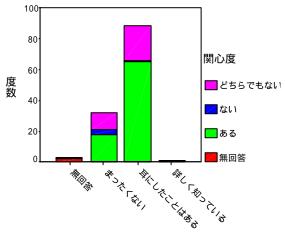


図2.学習支援ポランティアの受入状況(人数)

3.3 学校インターンシップ

次に「学校インターンシップ制についての実態をどこかで聞かれたことはあるか」という質問に対しては,「耳にしたことはある」という回答が大部分であり,導入するとしても,学校現場における事前の了解を得るための広報活動がかなり必要なことが予想される。もっとも,既有知識と関心度の高さには関連性がうかがえるので,広報活動などを通してこの制度が広く知られるようになれば,現場の理解も得やすくなることが期待できる。また,その際,教育実習との違いもさることながら,現在盛んに行われている学習支援ボランティアとの違いを明確にすることも大切となるであろう。





学校インターンシップ制の既有知識

図3.学習インターンシップへの関心

さらに、「もしこの制度が実施されたら、貴校では受け入れを希望されますか」、および、「1学期間に受け入れが可能な学生の人数は貴校全体でおよそどれくらいですか」という質問に対しては、図4、図5に示すようになった。割合からいえば小学校の方が中学校よりも導入に積極的であるといえる。思春期にあって指導の難しい中学生に対して、いわば「見習」期間にある学生を受け入れるのにはかなりの負担が見込まれることが原因となっているのかもしれない。

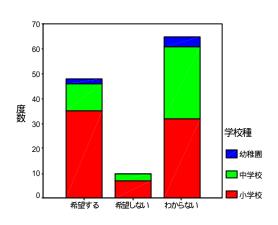


図4.受入希望

一方,図5を見ると受入可能な学生数として5名程度に回答が集中していることがわかる。これはある程度の規模の学校であっても責任をもって教育できる学校インターンとして学生の数がこの程度であることをしめしているのであろう。実際に導入する場合には一校あた

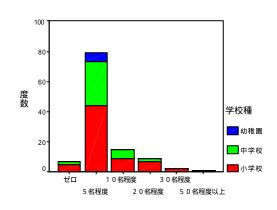


図5.受入可能な学生数

学校インターシップ学生を受け入れる時期を複数回答可能として尋ねたところ,学期の長さに応じて2学期,1学期,3学期の順で多く,選択率が最も高いのは「学校側が必要とするとき」であった。学校インターンシップ制度を大学側から見れば,単位を認定する科目の一つであり,大学のセメスター制との整合性をとるためにも運営上の工夫が必要であることが分かる。

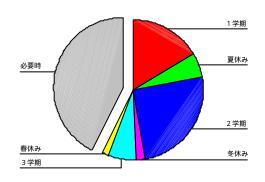


図6.希望する受入の時期

派遣されてきた学生に希望する科目を小学校と中学校のそれぞれで集計すると、図6および図7のようになった。小学校では情報教育、国際理解、あるいは総合的な学習に対する需要が多く、次に算数の希望が多かった。指導内容が現場に任されている、いわゆる「総合的な学習」は、生徒・児童たちにきめ細かい指導をしようとすればするほど、また、校外に出かける際の安全面を配慮すればするほど、人手が必要となること、また、他の教科と比較して算数は児童によって理解の程度に広がり

が大きく,クラス担任一人ではなかなか十分にできない 補習などのアシストが望まれていることが伺える。この 傾向は中学校でもほぼ同様で,科目としては数学・英 語・理科が算数と入れ替わり,小学校と比べていずれの 教科でも希望数が増えていることがわかる(図7参照)。

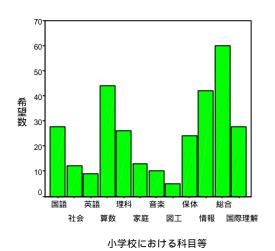


図7.派遣される学生に希望する科目(小学校)

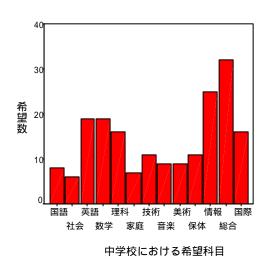


図8.派遣される学生に希望する科目(中学校)

さらに具体的に、派遣されてくる学生に対して科目関係で希望する仕事の内容を見てみると、ティーム・ティーチングのパートナーや学習遅延児の個別指導、校外活動の際の引率など、いわゆる「学習指導の補助」を希望する学校園数が全部で91件、算数(数学)・国語・英語・受験指導(中学校のみ)などの「補習授業」を希望数が計74件、また、プリント作成や実験用具の後片づけなどの「教材準備のアシスト」が計45件であった。

一方,科目以外で希望する仕事内容としては,「クラブ活動」が計118件,「学校園行事」が計117件, その他が計60件となった。具体的には,「クラブ活動」においては技術・技能・実技指導や大会への引率参加, 生徒とともに汗を流す,安全管理の補助が,また,「学校園行事」においては運動会や文化祭の会場設営,キャンプ等々が,さらに「その他」では保健室登校児童の相手,生徒・児童の遊び相手,生徒の気軽な相談相手などが挙げられていた。

最後に学校インターンシップを導入するにあたっての問題点を指摘していただいたところ,件数の多い順に,事故発生時の補償問題(33件),学校・学生・大学間の責任範囲の曖昧さ(29件),学校側の負担増(28件),指導体制やカリキュラムの整備の必要性(27件),学生の姿勢・資質の問題(23件),予算や施設の裏付け(16件),守秘義務の遵守(11件),保護者とのコンセンサス(9件),単位認定の際の評価責任の所在(8件),学校の実態とのずれ(8件)となった。いずれも現行の教育実習や学習支援ボランティアにおいて現場を悩ませている問題であり,学校インターンシップを仮に導入するとしても,同様のトラブルを抱え込む可能性は常にあるといえる。

なお,この部分については回答頂いた内容が具体的かつ多岐にわたるので,<u>資料1</u>および<u>資料2</u>を参照されたい。

4 . 結論

以上見てきたように,学校インターンシップ制を導入 するに際しては,様々な問題があり一朝一夕には導入す ることは不可能であろう。しかし,それでも,いわば金 属疲労を起こしている現行の教員養成システムを改変し、 ますます深刻化する教育問題に対応するための一石とな る可能性を秘めたものである。ある小学校の教頭先生の ご意見に,「学校インターンシップ制度は、今後必要不可 欠だと考えています。教育現場の問題は、ますます複雑 深刻であり、責任も重くなってきます。わずかな実習経 験と大学での講義だけで子どもの前に立つのは無理があ ります。また、子どもや保護者に対して、責任のとれる 体制ではありません。医師がインターンシップを重視す るのと同様に、教育にも、早急に取り入れるべきです。 初任者研修や経験者研修よりも、教員に採用される前の 実地訓練が重要だと考えます。採用されてから、教師と しての資質で悩んだり、病気になって休んだりするのは、 許されることではないと考えます。大学で学んで教員免 許を取得した後、1~2年の実地訓練(インターンシッ プ)を経験した者が採用試験を受けられる仕組みにすべ

きだと考えます。」とあったが,この調査から得られた 結論と軌を一にするものである。

謝 辞

本研究は平成13年12月8・9日に新潟大学教育人間科学部で開催された平成13年度教員養成大学・学部等教官研究集会(主催:文部科学省・新潟大学)第3分科会「学校インターンシップのあり方」において報告した内容をまとめたものである。貴重なお時間を割いてアンケートに御回答頂いた関係学校園の先生方には、厚くお礼申し上げます。

資料1 学校インターンシップ制度導入時に予想される問題点

学校種	学校インターンシップ制度を導入した場合どのような問題が生じると思われますか。
幼稚園	・学生との意見交換、指導等の時間の確保の難しさ
幼稚園	・教員とインターンシップ学生との打ち合わせ会を多くとらねばならないため、多忙感や、職員によっては負担に感じることがあるのではないか。 ・インターンシップの学生に事故などがある時、保障等の問題が起りえる可能性がある。
幼稚園	・初めのうちは、幼児が不安定な人間関係の中で落ち着きを失くす状態があると考えられる。
幼稚園	先生方の負担が大きくなる
小学校	(制度について、具体的に、どのように導入されるのか、よくわかりませんが)様々な 教育現場の現状に触れたり、数多くの職場体験をする事は、大切なことと思います。しか し、教職員数が少なく(定数)、ゆとりのない中、長期間の受け入れ体制をどのように するか。
小学校	・インターンの方への指導等の時間を確保すること。 ・専門にインターンの方に対応、指導する係をつくる必要もでてくる。 ・インターンの方がうまく学級に入ってくれればよいが、なに分長期間なので、五月病 のような不調不具合が多く出てくると大変である。
小学校	・各学校の実態に合わせて、必要なとき必要な人が見つからないという事態になるかも。 ・一緒に活動したいときに、実習生が来れないという事態があるかも。 ・ボランティア(無償)でお願いしたい。今後は学校も、学生もお金を出すことはしないで、インターンシップができればよいのではないか。そういう精神(ボランティア) をお互い共有しあうことで子供にもボランティア精神が根づくのではないか。
小学校	・学生の指導時間、指導内容
小学校	・学生の責任(指導上の責任)はどこまでか ・学制がけが等をした場合の保障等
小学校	・期日、時間、配当学年等の調整に大変な労力をついやす。 ・ケガやトラブルへの対応
小学校	・教師(教育者)であるという自覚とその自覚にもとずいた言動をしてほしい ・教育実習生より、さらに厳しい姿勢で研修に臨む必要がある。保護者や地域の人は , 一人の教育者として厳しい目で評価するものと考える。 ・インターン生に確かな指導のできる指導教師の力量を高めていかなければいけない。
小学校	・勤務条件の整備 ・災害補償制度整備 ・学校の教育方針、指導内容、指導計画の理解のあり方 ・時期と実施期間の調整 ・宿泊施設の確保
小学校	・事故などが生じた場合の保障問題。 ・インターンで来る学生の意識の問題。このことで、かえって、現場に負担がかかるお それがある。 ・インターンの時期や期間が、どのくらいなるのかで、現場の受け入れ体制も変わって くる。
小学校	・事故による障害補償の問題がある。

小学校	・児童に関する 秘情報が守られるかどうか心配です。 ・参加する学生の目的意識がはっきりしているかどうか、個人差があるのだから、その ばらつきが、現場では困りそう。
小学校	・職業意識を高めるための制度であることの職員間の共通理解をきちんと図らないと、単に、学習指導をはじめとする学校教育活動の手助け程度という受け止めに陥る可能性があると考えられること。 ・インターンシップのシステム等が、教師の負担に感じられるものであると受け入れが難しいと考えられること。
小学校	・多忙感のある時間設定の中で、事前や事後の打合わせ時間を新たに捻出するむずかしさがある。 ・来てもらうインターンに公務員としての義務、責任感、使命感等をどれだけ期待できるか、不安がある。
小学校	・どんなねらいでどのように活用していくのか職員共通理解のためにも計画作りが必要である。 ・業務内容や分担など、打ち合わせの時間を設定していかなければならない。 ・責任や補償関係はどうなるのか。
小学校	・長岡市の場合、当地に教員養成系の大学がないことから、学生の側の負担が大きいのではないだろうか。 ・また、受け入れ側においても、まとまった数の学生から来てもらえる方がいいわけで、1校1~2名では両方にとっても困るのではないか。
小学校	・日時、内容等、学校のニーズと、学習生の要望が一致するかどうか・学習生が長期にわたって服務、勤務を適正に行うことができるかどうか。
小学校	・日程の調節 ・災害補償 ・単位等の認定にかかる受け入れ側の負担 ・勤務の厳正と監督責任の範囲 ・大学と受け入れ学校の連絡調整
小学校	・入ってきた学生の行動についての責任所在 ・組織の一員としての役割が不明確となり、混乱を招く恐れがある。
小学校	・保護者とのコンセンサスの問題 ・学生の公務員(教員)としての位置付けの問題 ・指導できる教員の確保の問題 ・受け入れ環境(机、椅子、学生専用の部屋など)の問題等々
小学校	・身分保障がないための問題(事故等) ・職員の負担増。 ・校務分掌の位置づけ
小学校	1.校内での運営上の位置付け 2.事故(加害、被害とも)時の補償。責任および校長の責任 3.実施上に必要な経費 4.児童・生徒への不祥事があった場合の説明責任(不祥事でなくともあり得るが) 5.教育課程の遅れや後退
小学校	「どこまで介入してもらったらよいのか」に惑う。 教務室等が狭いので、どこにいてもらったらよいのか場所がとりにくい。 教職員とインターンシップ生との違いをどうしたらいいのか。(職員厚生も含めて) 教育実習生とは異なり、指導する立場から共に指導するという立場となるように考え るので、複数教員で行うティームティーチングが日常となってくると思われ、その違い を把握しにくい。単なる補助ではなくなるだろうとも考えるからです。

小学校	教員の十分な理解と取組みの準備が無いと、教員の負担増に陥ると思われる。 意図的指導場面はそれなりに有効であると思えるが、学生の日常的な言動による無意 図的な場面による感化については、学生側の十分な理解と構えがないと、やや不安であ る。
小学校	あらゆる教育活動を展開する場合、児童・生徒との信頼関係を築くことが大切に思われる。単なる補助的なお手伝いにとどまることなく、指導・支援を行った際の責任所在はどうなるのか。また、保護者、地域への理解も求められてくるのではないか。
小学校	ある単元、学期等、一定期間内の確実な派遣がお願いできない場合、煩雑さだけで効果 は期待できないのではないか。
小学校	いないときの活動が一層大変に感ずる。
小学校	インターンシップの内容についての評価と学生の評価
小学校	インターンの学生の指導をどのようにしたらよいか、あまりはっきりしていないので、 学校によってかなりの差異が出るのではないか。
小学校	受け入れる職員の中には、必要性がなかったり、外部に見られたくないという心情を もっていたりして抵抗を示すことが考えられる。児童の個人情報を外部にもらさないよ う事前の打ち合わせと信頼が大切になる。ただあくまでも信頼でしかない。各学級、学 年間の制度利用の差による保護者など、周囲からの評価(特に比較してのマイナス評 価)がマイナスになること。
小学校	受け止め方ひとつプラスになるようにいていけない。計画作り等あるがプラスに転じていけば 苦にはならない。
小学校	学生が長期間学校現場で活動することから、教育実習以上に担当者の負担が増大する可能性がある。校外学習等への引率で事故にあった場合の補償問題
小学校	学生が通勤に要する交通費 傷害保険制度 研修時間の確保
小学校	学生にとっては現場の実情や自分の適性等にとって知ることができメリットがあると思うが、学校現場の負担増は否定できない。学生であるという身分と現場で生じる様々な事柄にどの程度関わらせられるのか、悩むところである。
小学校	学生の意欲が高い人とそうでない人の対応差。 現状では、誰でも受け入れるのは困難。 学生の指導に手がかかってしまう
小学校	学校がますます多忙となる。
小学校	学校現場は多忙であるので、せっかくの学生のやる気に、満足感を与えることができない可能性がある。
小学校	活動の施設に伴う責任のあり方 #費用の負担等
小学校	期日、期間と希望する人材が合致しないのではないか。例えば、外国人とのコミュニケーション補助に外国語の得意な人材を希望しても、うまく配当されないのではないか。
小学校	教育実習生と同様、教員に負担が生ずる。
小学校	教育実習生の希望実習内容と、受け入れる学校の希望、期待に差が生じることが考えられる。また、時期や期間の調整も難しい。

小学校	教員と同じ扱いとする必要があるため控室,控えの場所が確保されないと長い期間は無理。
	(机等購入の予算的措置が必要である) 学校側の負担増とならぬように、教育実習への指導のあり方と違った指導上のシステム、評価方法が必要である。 単位認定等。
小学校	教師の負担増(指導や打ち合わせの時間が必要と考えるから) 学生の身分保障を含めた処遇体制の整備 本制度を活用した学生と活用できなかった学生の将来的な処遇の問題(不利が生じない 配慮)
小学校	ケガ等の補償 担当者との意思の疎通とそのための時間の確保
小学校	けがをした場合の保険制度の新設 資格と給与をどうするか 受け入れ体制(どのように受け入れるか)
小学校	現場の立場からすれば、むしろ問題よりも効果的であろうと思われる。 ・学生の認識が大きく変わってくるであろう。 ・多様化している子供の姿が見えてくるであろう。 ・自己のレベルでは解決できない問題に出合うであろう。 人間的な教師としての教育観が生え付くのではと期待できる。
小学校	この制度の内容がいま一つ理解できないので、制度の導入によりどのような問題が生じるかはよく分かりません。ただ、これまでの教育実習生を受け入れた経験から考えますと、学校現場の仕事量が増えて正常な学校運営に支障が出ることが多かったように思います。インターンで学校にやってくる学生の資質にもよりますが、大学が説明している「学生は単なる業務の手伝いという視点にとどまらず、責任を共有させるので学校現場にもいい意味での緊張感がもたらされる。」という点に疑問があります。インターンの学生に、どのような責任を共有させることができるのでしょうか。インターンの学生を指導するために、学校が一層責任と緊張を強いられるのでないか。という不安があります。当校の実態から申しますと隔年ごとに新採用教員を2名ずつ受け入れておりますが、その指導においても大変な時間と労力が費やされております。新採用教員は学校の正規のスタッフですので、学校運営上立派に育ってもらわなければなりませんから、全力を学げて責任を持って指導しています。正規の新採用教員でさえその指導に苦労しているのですから、インターンの学生には一層手が掛かることにならないか心配です。
小学校	事故が起きたときの対応 (問題等)
小学校	事故等の際の保障について ひかえ室、湯茶等の準備等の接待関係 事前・事後の打ち合せにかかる時間設定 交通費・謝礼等の問題
小学校	仕事を進める上での打合わせのもち方 控室、その他必要経費のあり方
小学校	事故発生の際の責任能力。 児童・生徒 本人が事故などにより負傷した場合の対処 旅費、経費などの負担
小学校	事故発生の場合の保障
小学校	実習生の身分,手当をどうするか。

小学校	児童・職員のプライバシーなどの守秘義務違反
	問題あるインターンの管理
	問題あるインターンの受け入れ拒否
小学校	指導に当たっての責任の所在、保障
7) 7 X	学生の通学上の交通安全
	子王仍进子工仍交进女王
1 22 14	
小学校	守秘義務の遵守を徹底すること
	子供の安全確保と学年の責任能力、法的根拠の裏付けの関係をはっきりさせること。
小学校	守秘事項について
3 3 12	
小学校	傷害を負った時の保障
71-TX	児童・生徒に傷害、学校に損害を与えた時の保障
	元里・土地に陽古、子牧に損古で可えた時の体障
.1. 224 12	·····································
小学校	小学校の教員の様子を見ていると、自分たちの仕事だけで精一杯の感じがする。したがっ
	て、実際に学生が派遣されてきた場合、1つやっかいな仕事が増えるという感じをもつ教
	員は多いと予想される。
小学校	不審者侵入への対応マニュアルが複雑になる。
	(職員への周知徹底が難しい。)
	ボランティアコーディネーターと学校側との話し合いが新たに必要となる。
	(慣れるまで多少時間が必要。職員の中に新たにボランティア対応をする者が必要と
	なるため、初めが少し手間どるだろう。)
小学校	保護者を中心とする、学校自主管理委員会等との連携、強力について、協議する必要が
	ある。
小学校	補助内容についての打ち合わせ(連絡・調整)の時間の確保
3 3 12	
小学校	もう少し具体的にならないとイメージがつかめないが長期に渡った場合、校内の教職員
7) 1 1X	との人間関係や、学生の勤務場所の確保などに問題点が出てくると思われる。
	この人间関係で、子生の動物場所の唯体などに同趣点が近でくると思われる。
中学校	・インターン生の服務、勤務の監視を誰が行うか。
	・事故が起きた場合の責任の所在。
	・勤務時間と勤務場所、仕事や活動の内容。
中学校	・学生が、学校事故等のさまざまな事柄に対して、どこまで責任が持てるか。(その身
	分に対する法的なうらづけ)
	・個人の性格等にもよるが、人間関係成立の難しさ。
	(対職員、対生徒)
	・今日の学校現場がかかえる諸問題に、学生が対応できるのか。かえって自信を失うこ
	とになるのではないか。
	・学生の受け入れのための、負担が担当職員に重くのしかかることが、場合によっては
	ある。
中学校	・学生が自立していないだけに、現場教師に学生を指導する負担が生ずる。
	・生徒と学生の間にトラブルが少なからず生じる。
中学校	・学生の意識を明確にする。インターンシップとはいっても一人一人のこどもたちとの
	成長に深くかかわっていること。そのために、職員と同じレベルの意識で活動すること
	が求められる。
	・受け入れ側も、都合のよい人足ではなく、共に子どもたちを育てていく協力者であ
	11 将来性のある場別に別師に合く(114(1 1)にといる言葉が必要である。
	り、将来性のある優れた教師に育てていくのだという意識が必要である。
中兴场一	
中学校	・学生のケガや事故等への補償や責任の所在
中学校	
	・学生のケガや事故等への補償や責任の所在 受け入れる学生の資質・指導力にかかる問題および事前審査の必要性
中学校中学校	・学生のケガや事故等への補償や責任の所在 受け入れる学生の資質・指導力にかかる問題および事前審査の必要性 ・学生の身分上の取扱い
	・学生のケガや事故等への補償や責任の所在 受け入れる学生の資質・指導力にかかる問題および事前審査の必要性
	・学生のケガや事故等への補償や責任の所在 受け入れる学生の資質・指導力にかかる問題および事前審査の必要性 ・学生の身分上の取扱い

中学校	・学校インターンシップで来られた学生さんが、活動中に、事故が発生した場合の対応の 在り方。
	・又、活動中の子供たちに、事故が生じた時の対応のあり方など
中学校	・学校現場の多忙化。 ・生徒指導の問題が不安。
中学校	・学校に教員の加配がないと、多忙感がふくらむ一方である。 学校が守秘すべき個人情報が多く流出する(非行、いじめ、不登校・・・・)
中学校	・教育実習生同様、生徒側が友達感覚で接した場合節度がなくなるおそれがある。 ・学生を受け入れた場合、学生の指導が教師の更なる負担となる場合が生じないか?(学 生の意欲や資質によって違ってくるであろう)
中学校	・事故があった時の責任のあり方 ・長期になればなるほど、生徒との関係が深まる。その場合、指導者の考えが生徒にどれだけかかわっていくのか。 ・大学生の中に教員としての資質が十分にない場合長期であれば、生徒に与える影響も 大きくなる。
中学校	・事故の場合の責任、補償等(インターン本人の事故及び生徒の事故) ・評価のあり方
中学校	・守秘義務 ・指導中の生徒及び本人のけが等。 ・教員との指導観や指導方法の相違
中学校	・生徒指導上、学生は生徒に厳しく指導できない要素があるので、職員との指導のずれが生じる。 ・学生が実際に来ても、学校側の期待するような動きができない場合、その後の対応のあり方をどうするか。(その学生をどうするか)
中学校	・生徒のケガに対する補償問題 ・生徒指導上の諸問題 ・保護者への説明と信頼
中学校	・担当教師との連携 担当教師が指導しなければならないと職務が多忙にならないか。
中学校	・通勤時の事故、生徒への傷害、生徒からの被害事故などの発生の際の責任問題
中学校	・導入の意義、方法等を学校現場の教員の中で共通理解を得ること。また、その主旨を 生かした、教育活動への対応に時間がかかる。
中学校	・秘密の保持 ・待機場所 ・学生の精神的、肉体的疲労 ・担当職員の負担の増
中学校	1、責任の所在 2、学校としての受入体制
中学校	学生の中には、安易な気持ちで参加し、自分勝手さから、逆に事後に弊害が生ずること、きわめて不安に思う。(新大の実習生を見ていても、信頼できるのは3人に1人くらいの割かなあ) 教育では、個々のプライバシー等、様々な情報が介在する。そのための立ち入る限界、プライバシー保護等々の問題は頭が痛い。 身分的保証の問題、とりわけ様々な保障、保険等の問題は未解決であること。

中学校	一時的な支援は煩瑣な点が多く、学校運営上の諸事項についての確認指導徹底を図るための労力が必要となる。
中学校	インターンシップを希望してくる生徒の意識の問題が大切だと思います。「単位をとる ため」ということではなく、「教員になるため」という前提でやってもらいたい。ま た、大学側の指導をしっかりやってもらいたい。
中学校	学生の気負いによって関わり方が変わってくる。 学生の充実感、成就感をどのようにもたせるか
中学校	学校側の負担が大きい。
中学校	教師が足手まといと感じること。
中学校	公務員としての服務勤務が十分把握されていない学生さん、やはり心もとない。生徒との指導の他に余計な指導や配慮が必要になってくるように思われてならない。正直なところ・・・。
中学校	事前の打ち合わせ、各種手続き,毎日の指導教師との打ち合わせ反省,評価,報告等に 必用な時間を、今の現場は持ち合わせていない点。
中学校	実際の場合の身分上の扱いがわからないことと、インターン本人や授業中等の生徒に事 故やケガが起こった場合の責任とその保障がどのようになるかわからないことが現在気 にかかる。
中学校	実習生を受け入れるだけでも、それにともなう指導等に時間がかかり、学校全体の負担となっている。学校インターンシップ制度が、教育実習と同じような内容で、ただ期間が増えるだけということであるならば、現場での負担がさらに増すことになり、当校としては、受け入れに対し、消極的にならざるを得ない。
中学校	正規教員とのえんりょや実行時の考え方のズレ 職場に円滑さを欠く
中学校	生徒のプライバシー保護 校内には、生徒の成績や家庭環境など,生徒のプライバシーに関する情報がいろいろと ある。「秘密を守る義務」がどこまで徹底できるのか、違反した場合の罰則はどうなる のかなどが明確になっていないと不安な面がある。 教職員の負担の問題 教育実習生の指導であっても学校としては負担を感じるときがある。社会人としての常 識をしっかりと身につけていない学生の場合は、その指導にかえって時間がかかるので
	はないだろうか。学生気分のまま、気楽にやってこられてはたいへん困る。
中学校	生徒への指導以上に学生との打ち合わせや、学生への指導に時間が費やされたしまうのではないか?
中学校	そう多くは問題は生じないのではないかと思います。

資料2 学校インターンシップに関して寄せられた意見

学校種	(学校インターンシップに関して)その他ご意見やお気づきの点がございましたら,どう ぞご自由にお書き下さい。
幼稚園	・インターンシップと言うことは聞いたことがありましたが実際にこの制度が導入されると、自分の進路というものが適正かどうか はっきりとわかってくるのでいいことだと思いますが、受け入れ側は大変と思います。
幼稚園	・幼児教育への理解を得られることが大変ありがたい。 特に教職希望の人(小中・特殊)にはこうした機会に経験してほしい。
小学校	・制度とした方がいいのかどうか多方面からの論議が必要 ・大学の学問という点からの検討が必要
小学校	最近はどの学級にも、補助・介助を必要とする児童が存在する。この制度が実施された場合、学生の存在は、このような児童にとっては、貴重で意義のあるものになるであるう。
小学校	「学校インターシップ」制の趣旨が明確に示されてないように思う。仮りに、派遣された学生の仕事の種類で、教材の準備や学校行事の準備を選択した場合、目的が達成されるかどうか、疑問である。県のいじめ、不登校対策の加配教員の補助的仕事や指導を受けることも一票ではないかと思う。
小学校	学生たちの子供観、教育観、教師観、etc、現実と理想とのギャップが非常に大きいように感じられるのが実習生の中に見られる。 能率的に低い子、生徒指導上問題のある子など、自己体験や自分の未知の世界ばかりの 場面に出会った時、自己解決能力に乏しいのが大部分の学生である。 これらを解決していくためにも、インターシップの導入は大変、効果的であろうと考え ている。「人間性豊かな学生でないと教師はハードな仕事であることを付け加えた い。」
小学校	・学校現場の平均年齢が毎年高くなっていっているとき、活力のある若者が学校を活性 化する原動力となるのではないか。子供に最も近い年令なので期待がもてそう。 ・どちらが主導権をもって進めるのか、教官は巡回されるのか?
小学校	・採用検査条件に一年から二年のインターン制経験を入れたらどうか・大学卒業後(免許取得後)に行う。・教員養成は五年制にして、一年間のインターン制を設ける。
小学校	・マスコミ等でしか知り得ないところだが、昨今の大学生には向学心や真摯な態度に欠ける面が窺える。また就職のための心配があったり、行動を起こす必要があったりする学生が長期に渡って学校現場に来ることに、学校、学生の双方とも無理が大きいと思う。 ・インターンシップ制は大学生よりもむしろ新採用者に適用し、学級担任となるための技量や資質を高めながら学級担任でない立場からの授業研究や教材作り、各種分掌の事務を行ない、教師が自分の天職であるかどうかを先輩職員と共にじっくりと見つめることが大切であると思う。
小学校	、前述 との関係で、インターンシップの方々の身分が見えにくく、どんな対応(教職員と同等に扱ってもよいのか?)を関るのかが分かりにくいかな、と感じています。 、4年までの単位を取得して、さらに現在の初任者研修のような内容も取り入れて、現実的に採用されていくなどの経験に基づいた人材確保となってほしいものです。 単に教育実習の延長では問題(現在の教育に関する課題)の解決には難しいかな、とも考えてしまいます。

1.教師になる資質が問題にされて久しいが、技量は学習して獲得されるものが大き い。しかし、児童・生徒に対応する基本的姿勢(センスとも呼ばれるが)は学習して得 られるものではなく、生来のものが大きいように思われる。それが、二番のもんだいで 2. しかし、属性・特性としてのセンスは現行の採用制度では見極める術がないため、 制度を変えることには意義がある。 3.同時に不適格者への制度付けも必要に思う。(意欲の無い者、動機が感心できない 者の排除) 4.現場を身をもって知り、認識を深くして意欲を啓発するにはインターンシップ制に 期待しています。しかし、現実に越えなければならないハードルは多く、実現には慎重 を期する必要はあろうかと思います。 遅くなって申し訳ありません。現場はそれ相応に多忙であります。 小学校 一律にアンケートを実施するのでなく、学校の規模等をよく確かめて実施されたらいか がでしょうか? 小学校 インターンシップ制の導入により、学校に清新な空気を入れ、学校変革の契機にしてい きたい。 小学校 学校インターンシップ制度は、優れた教員を養成する点からは望ましいものだと思いま す。ただ、インターンでやってくる学生の指導にも、新採用教員の指導教員のような担 当者が必要になるだろうと思います。その人的配置が望まれます。 また、大学側も積極的に学校現場に足を運び、学校と緊密な連携を取りながら、この制 度の趣旨を生かす努力をお願いしたいと思います。教育実習生の指導については、受け 入れた学校がバタバタするだけであったように思います。大学側の十分な、そしてきめ 細かな協力が望まれます。 小学校 学校インターンシップ制度は、今後必要不可欠だと考えています。 教育現場の問題は、ますます複雑深刻であり、責任も重くなってきます。わずかな実習 経験と大学での講義だけで子どもの前に立つのは無理があります。また、子どもや保護 者に対して、責任のとれる体制ではありません。医師がインターンシップを重視するの と同様に、教育にも、早急に取り入れるべきです。 初任者研修や経験者研修よりも、教員に採用される前の実地訓練が重要だと考えます。 採用されてから、教師としての資質で悩んだり、病気になって休んだりするのは、許さ れることではないと考えます。大学で学んで教員免許を取得した後、1~2年の実地訓 練(インターンシップ)を経験した者が採用試験を受けられる仕組みにすべきだと考え ます 小学校 学校側の考えを最大限尊重して欲しい。 |教育現場としては、パートタイム的に午前中だけ,午後だけ放課後の部活動だけという 小学校 形でも補助があればありがたい。 小学校 教育実習についても同様だが、派遣されてくる学生側にどの程度、自覚があるかが重要 だと思う。 小学校 教師の資質が問題視されている時なので、これから、教職に就きたいと考えている人に は、より高い意識をもって、学んできて欲しいと考える。そのために、インターンシッ プ制度は効果的なのではと思う。 小学校 教職を希望する学生にとって、自己の適性をみたり、教育現場の実情理解につながるの で、制度を整備しながら実施できるとよい。 小学校 この制度は"ねらい"に関しては非常に有意義であると思うが、実行については受け入 れる学校に相当の人的、時間的なゆとりが必要である。(受け入れは学校にとってプラ ス面より負担面が多いと考えるため)しかるに本校では本年度実施の少人数授業のため 学級編制によりゆとりがほとんどなく、現状での同制度の受け入れは難しいと考える。

小学校	実習生・教員とも刺激になり、活動の充実が期待できる。
小学校	小規模校における教職志望学生のための研修は、現在の職員が校長を含めフル駆動している現状にある。よって研修生の受け入れは不可能であると思う。ある程度の学校規模を選択し、その中で行うことが望ましいんではなかろうか。 また一学級10名程の場合は学習不適応児への対応また、学級崩壊等も発生しにくいの
	ではなかろうかと思われ、具体的な研修活動は上記の方法がよいと考えます。
小学校	導入が時期的なものでなく1年間や半年間のインターン制のようであればよいと思う。 学生自身にとっても進路の確保をはかることができるのではないか。また、初任者研修 の時間削減にもつなげることができるのではないか。
小学校	新潟県では13年度より小人数学級による学習指導が始まったが、児童や保護者からは 指導がよりゆき届くようになった、授業が分かり易くなったとか,歓迎の声が殆どであ る。従って,インターンの学生であっても,指導の補助についてくれることは、学力の 向上により有効であると考える。インターンを受け入れるにあたって災害保障制度が確 立されることが必要である。
小学校	発想はよいが、学校で受け入れ体制が整えられる余裕は今のところ少ない。
小学校	前向きなアンケートをうれしく思います。 是非実現したいです。やらないで、悩むより、やっていきながら、よりよいものにして いくことが教育的アプローチだと思います。
中学校	基本的には、短期間の教育実習より、まとまった期間学校現場を経験することは有意義であり、効果が期待できると考えられるので賛成である。
中学校	当校では「学校インターンシップ」制について全職員で話し合う場をもうけたことはない。 い。 また、学校支援ボランティアの経験もない。このような状況の中での回答であり、参 考にならなかったことと思い、おわび申し上げます。
中学校	学校インターンシップ制が実現する際は、関係の学生は自分の母校で行うようにするのが望ましい。
中学校	大学生(一般にまともとされる学生)の人材活用は、今後の大きな問題であると思う。しかし、現実の学生の「生活力」「能力」から見ると、極めて残念であるが一定の限界を引かざるを得ない。従って、大学側もこうした制度を導入するのであれば、派遣先に対して、十分責任のとれる人材、派遣体制、トラブル処理対策等の木目細やかな準備体制が強く望まれる。現在のような、頭数を割って機械的に配分、配置させるのであれば、絶対に受け入れたくない。
	学生だけでなく、大学教官の中でも社会的常識が欠けている人も少なくはない。そうした内部(大学)の整備も不可欠ではないか。 = 「学問だけで、社会性 - 人間性が 」の教官である。 厳しいことを書いて恐縮です。しかし、多くの校長の「本音」は私と同等であろうと思いますので、ご承知ください。
中学校	・学生にとっても、生徒や教師にとっても期待される制度であり、様々な障害をクリアーして実現されることを望む。
中学校	・学生の受け入れが、学校や教師側の新たなる負担増となるかも知れない。しかし児童・ 生徒の変化が激しく、学校教育がますます難しくなるであろうこれからを担う優れた教 師を育てる必要がある。そのためにはインターンシップ制は大切な方法ではないだろう か。
中学校	・学級担任や教科担任の意図が分かって、動けるインターン生であれば良いが、ルーズで気のきかないインターン生の場合、預かる担任の負担が多くなる場合も考えられる。 ・インターン生の活動ぶりをもとに、教職不適格者をはっきりさせることができるよう に思う。

中学校	・教職への高い志と理解のある学生を希望。
中学校	インターン制を単なる教育実習の期間延長ととれるのかそれとも 全くボランティア活動のように配偶されるのかで受け入れ側の考えが変わってくると思う。
中学校	学生の目的意識の強さ,意欲,教科指導の能力、生徒に接する基本的な姿勢や、社会人としてのマナーなどにより、学校職員の負担の大きさは,かなり左右されてしまうと思われる。
中学校	現場の教員や生徒、保護者にアンケートを実施し、データをしっかり分析した上でやってもらいたい。
中学校	個人的な見解としては ・学部の4年間で教育哲学、心理学、教科法などの他、人文科学、自然科学、社会学等の専門分野について、しっかりと学ぶ。(文学なら文学についての専門性を高める)・学部卒業後、一年間をインターンシップ期間とし、「現場での実習」と「大学での学習」をくり返す。 ・この1年間の後、採用試験を受けることが、又は正規の教員として現場に配属される。 ということを考えています。
中学校	当校では、保護者、地域とともに生徒を育てていくという考えを大切にしており、学校行事や総合的な学習など、さまざまな場面で、保護者や地域からの支援を募っている。これは「学習支援ボランティア」として、きちんと規定しているわけではなく、必要に応じてお願いするということで、とても効果をあげている。このように、学校側でのニーズに合わせた支援はどんどん受け入れたい。大学生については、本当に教員として働きたいという意志がある学生が実習に来ているわけではないという実態もあり、単位取得のために、更に期間が広がるだけだとしたら、教育現場としては協力に対して消極的であるう。ただ、本当に教員を希望している学生にとっては、価値のある制度であると考える。大学の附属小、中学校を大いに活用していくのが望ましいのではないか。